

ボーイズラブ回顧年表：ぶどううり・くすこ文責 【20131031版】

文献及びぶどううり・くすこ個人の記憶並びに確証が持てるであろう伝聞に基づく。
出典は可能な限り明記。文中敬称は基本的に略。

ぶどううり・くすこ連絡先

→ twitter@xqo_b / xqogm@live.in / 「シヨタやおい雑記」 <http://xqosy.seesaa.net>

○●○

1978年10月1日

『comicJUN』（サン出版・刊）創刊
中島梓が『少年派宣言』と題した一文を寄せる。
中島梓（栗本薫）の JUNE に対する姿勢・理念の礎とも言える
一冊『美少年学入門』のはじまりである。
以降彼女は 1983 年 11 月刊行の【復刊】 JUNE 13 号に至るまで毎号に
『美少年学入門』を構成する原稿を寄せ続けた。
後に『美少年学入門』は 1984 年 6 月に新書館から単行本化され、
1987 年 11 月には集英社から文庫化。更に 1998 年 10 月には
筑摩書房から文庫化された。
参考データ http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/comic_jun.html

1979年2月1日

『comicJUN』3号、『JUNE』と改題され刊行される。
以降誌名は『JUNE』に定着。これが所謂「大 JUNE」と通称されるもの。
『comicJUN』2号に掲載されたブックガイド記事「世界 JUN 文学全集【西洋篇】」の
続篇【日本篇】が「世界 JUNE 文学全集」としてこの号に掲載される。
監修を担当したのはあかぎはるな（栗本薫）。

1979年4月1日

『JUNE』（『comicJUN』）通巻4号刊行
編集後記にて誌名変更の理由が明かされる。
《株式会社ジュンの商標と混同される恐れがあった為》との事。

1979年12月20日

同人誌『RAPPORTI（らっぽり） やおい特集号』刊行（発行責任者：波津彬子）
収録された座談会（「らっぽり特別企画 やおい対談」）にてやおいの定義を
冗談交じりに話し合う。現行の原義『山なし落ちなし意味なし』はここから
由来するものか？
なお座談会中には遡る事7年程前に既にこの定義に基づいた掌編が成立して
いたとの証言もある。【再録；「小説 JUNE」2001年3月号/通巻129号】

1979年8月

『JUNE』一時休刊【国立国会図書館雑誌検索にて確認可能】

1980年10月5日

『ALLAN』（みのり書房・刊）創刊。アニメ情報誌『OUT』増刊号としてスタート。
途中独立刊行化するも1984年6月・通巻22冊にて『JUNE』のライバル誌としての
歴史を閉じる。

1981年5月25日

『ふあんろーど』（ラポート・刊）5号掲載「ふあんろーど★くりにつく」にて
回答文中に「シヨタコン」の文字が登場。（74ページ）
「シヨタコン」の初出。

1981年10月5日

『JUNE』、『劇画ジャンプ』増刊として復刊。
以降『JUNE』ブランドは2012年まで形式を変えつつも継続。
なおこの際刊行された『JUNE』復刊号【1981 No.1】収録の座談会において
登壇者の安彦良和が同じく登壇者である竹宮恵子・作「風と木の詩」を
アニメ化したいとの希望を提言。
それを受けての事か『アニメージュ』9月号（徳間書店・刊）に安彦と椋尾篁が手掛けた
「風と木の詩」のカラーイラストが掲載される、と座談会記事文末に案内が掲載された。

1982 年 1 月

竹宮恵子、『JUNE』誌上で「お絵描き教室」を展開開始。

（情報収集先：「竹宮恵子の図書館」北館

<http://www.eurus.dti.ne.jp/~miyabi/kt-lib/north/north-illustessay2.htm>)

この一連は後に角川書店発行『マンションネコの興味シンシン』及び

『マンションネコの興味シンシン（続）』（ともに 1984 年発行）に再録され、後に筑摩書房から 2001 年に刊行された『竹宮恵子のマンガ教室』にも抄録された。

1982 年 4 月 8 日

魔夜峰央原作『パタリロ!』、アニメ化されフジテレビ系列にて放映される。

【全 49 話。1983 年 5 月 13 日に終了。

1982 年 10 月 9 日放送第 21 回より『ぼくパタリロ!』と改題】

原作は少女漫画誌「花とゆめ」（白泉社）掲載ではあるが男性同士の恋愛関係も重視されている世界観を内包した作品。その世界観を一切隠す事無くアニメ化された。

1983 年 10 月 5 日

『小説 JUNE』創刊。所謂「小 JUNE」と呼ばれる存在。

なお、この号以降折々に「蘭精果」の号を名乗る文人が JUNE を題材にした

短歌を寄せていたとの事。参照 → http://www.mjakk.jp/gabacho/june_n/june.html

1984 年 1 月 1 日

『ファンロード』84年1月号（ラポート・1984.1.1発行）〈シヨタコン特集〉冒頭にて

「少年探偵団コンプレックス」語源説否定される。

同説が提唱された場所については明記されていない。

1984 年 1 月

『JUNE』誌上に中島梓（栗本薫）を道場主とする小説講座「小説道場」が開設される。

この連載の一連は後に新書館から 3 冊組で単行本化（1986 ~ 1989）され、

後に光風社出版より新版として 4 冊組で再刊（1992 ~ 1997）された。

1987 年 1 月 24 日

別冊 COMIC BOX1『つばさ百貨店』（ふゅーじょんぷろだくと・刊）刊行

現在の二次創作ジャンル別アンソロジーの祖であると思われる。A5 より幅が狭いムック形態。

1987 年 7 月 1 日

別冊コミックボックス 3『つばさ五段活用』—つばさ同人誌傑作アンソロジー—

（ふゅーじょんぷろだくと・刊）刊行。

こう言う内容の刊行物に『アンソロジー』と冠した祖と思われる。A5 より幅が狭いムック形態。

1987 年 11 月 26 日

安彦良和監督により竹宮恵子作の漫画『風と木の詩』がアニメ化され

オリジナルビデオ作品として発売される。DVD 化はされていない。

作品タイトルは『風と木の詩 SANCTUS —聖なるかな—』

全編が映像化された訳ではなく、物語冒頭部分から内容を起こしている。

なお、竹宮作品でこれに先立ってアニメ化【1981 年】された

『夏への扉』作中では主人公の少年に懸想した同輩男子が関係を持つ事を迫る原作描写がそのまま映像化されている。

1988 年 3 月

青磁ビブロス創業。

（1997 年にビブロスに社名変更→ 2006 年に倒産後リブレ出版として再生）

1988 年 3 月 26 日

金子修介監督・岸田理生脚本の映画作品『1999 年の夏休み』劇場公開される。

萩尾望都・作の漫画『トーマの心臓』をモチーフにした作品。

女優の演技に声優が声を当てる形式で少年の世界を描き出した。

<http://movie.walkerplus.com/mv17745/>

http://www.shusuke-kaneko.com/f_graphy/filmography/1999sum.html

後に角川書店ルビー文庫より同題の岸田理生によるノベライズが刊行された。

【1992 年 11 月刊行】

1988年4月20日

FRESH PACKS『メイドイン★星矢』—星矢同人アンソロジー—（青磁ビブロス・刊）刊行。

青磁ビブロス（後ビブロス→リブレ出版）創業間もない頃の仕事。
この時点でカバー付 A5 版・ISBN 付と言うアンソロジーの流通形態が整う。

1988年11月

この界限初の音声メディアと言えるカセット JUNE の創刊。

「鼓ヶ淵」（三田菱子原作）が第一号。

往時大 JUNE でも作品を描いていた中田雅喜がエッセイ漫画「ももいろ日記」の一編に作品視聴所感を描き残している。

（所収：「ももいろ日記 下」ユック舎・批評社 / 1991.1.10 初版、71～74 頁）

1989年1月1日

ふゅーじょんぷろだくとより漫画誌『KID's』創刊。

同社発行の二次創作アンソロジー寄稿作家によるオリジナル商業漫画誌。

現在で言う行為を伴わない匂い系ボーイズラブも範疇に含むが、ベースは少女漫画。

参照データ http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/KIDs.html

データ検索の限りでは 1990 年末には廃刊に至っていたものと思われる。

1989年12月24日

別冊宝島104『おたくの本』【JICC 出版局・刊】に以下の二記事掲載。

「やおい族 美少年ホモマンガに群がる少女たち！」（梨本敬法・筆）

「ロリコンとやおい族に未来はあるか!? 90年代のセックスレポリビューション」

（上野千鶴子・談話）

“やおい族”が活字となった端緒は後述の米沢嘉博の記述といずれが先か？

1990年1月1日

コミックマーケット第2代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』

（自由国民社）掲載「マンガ文化用語の解説」文中で《少女アニメファンの一部を“やおい族”とよぶこともある》と言及。

1990年4月

青磁ビブロスより雑誌『PATSY』及び PATSY コミックス創刊。

少女漫画レーベルではあるがその範疇にはボーイズラブ風味の作品も含んでいた。

あくまでもボーイズラブ専門レーベルでは無い。

1990年8月1日

『GUST』（桜桃書房）、アンソロジー形態で創刊。キャッチフレーズは“YAOI COMIC”。

同誌は後に雑誌化されるも休刊に至り、内実は 2003 年に創刊された『GUSH』（海王社）に継承され現在に至る。

参照データ http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/gust.html

1990年8月25日

JIGEN・文苑堂より

『コミック版 同人サークルせれくしょん Vol.1』【スタジオ YOU 編】刊行。

コミックマーケット参加サークルではなく、スタジオ YOU 主催イベント参加サークルよりのセクションである模様。アンソロジーを除くサークルガイドとしては先駆的存在か？

同人誌通販の為のカタログとしての機能も併せ持つ。

1991年1月1日

コミックマーケット第2代代表・米沢嘉博が『現代用語の基礎知識 1990』

（自由国民社）掲載「マンガ文化用語の解説」文中で《やおい》を独立項目として解説。

“ヤマなしオチなしイミなしの略であり、ショタコンと少年愛路線（JUNE 派）が結びついて生まれたもの”とほぼ断定。この基本定義は 2002 年版で米沢が解説員を退くまで変化せず。

1991年4月20日

有限会社すたんだっぷ出版部（代表：荒木立子/あらきりつこ）がオリジナルアンソロジー『Boy Beans』SPRING 1を刊行。
“女のこによる女のこのための男のこの本”“男のこどうしだっっていいじゃない”と表紙に謳う。

なお、巻末広告には10月刊行予定の次号刊行予告が掲載されているが実際は刊行されていない。

10月刊行予定号の内容を一部改変されたものが同年12月、白夜書房から「イマージュ」として刊行された、と資料からは読み取れる。

なお、『Boy Beans』誌面に「BOYS LOVE」という語彙は出てこない。

参考データ http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/boy_beans.html

1991年12月10日

『イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。

キャッチコピーに“BOY'S LOVE COMIC”と冠する。

「ボーイズラブ」という言葉の初出であると考えられる。

考案者は編集プロダクション『すたんだっぷ』代表・荒木立子（白城るた）とされている。

【2004年8月、漫画家の河内実加が自身のWEB日記で『“ボーイズラブ”はあらきりつこ（荒木立子）が命名したもの』（大意）と言及。

MacaMica-まかみか Mika Kawachi's Talking

<http://www.asahi-net.or.jp/~rj4m-kwc/>

DIARY→OLD→2004年8月→6日付記事】

ただし現在の定義そのものではなく「耽美」或いは「JUNE」の置換語と認識されていた節がある。

参考データ http://www.mjakk.jp/gabacho/june_c/image.html

1991年12月10日

勁文社より神崎春子の小説『瞳に星降る』が“耽美小説 SERIES”の初回配本として刊行される。この傾向の商業区分としての《耽美小説》はここに始まったものと思われる。

このシリーズはハードカバーであったが新書版の大きさであり一段組であった。

現行のBLノベルス版版組の原型になったのでは無いかと思われる。

1991年12月20日

雑誌扱いアンソロジー『b-Boy』（青磁ビブロス・刊）創刊。

「ボーイズラブ」の文字は誌面に一切出てこない。

1992年初頭

『JUNE』関連の発行元がサン出版からマガジン・マガジンに移管されたと思われる。

1992年4月

白夜書房が“白夜耽美小説シリーズ”刊行を開始。

1992年6月30日

『小説イマージュ』（白夜書房・刊）創刊。

キャッチコピーに“BOY'S LOVE NOVELS”と冠する。

のちの雑誌『小説イマージュ CLUB』（白夜書房→コアマガジン・刊）である。

但しここに掲載された作品は概ね「耽美」と解釈されていた様子。

「ボーイズラブ」と冠した作品もレーベルも往時はなかった。

なお、この本にはSF小説家・野阿梓が後に角川書店ルビー文庫の一冊となる

『ミッドナイト・コール』第1作を寄稿している。

（文庫化上梓は1996年6月1日）

JUNE関係者を除いては初の男性作家執筆によるBL作品であるか？

1992年8月

マガジン・マガジンより『間の楔』OVA第一巻が発売される。

この界隈初のアニメ化作品と捉えて良いかと。

なお2012年1月18日から同年4月18日にかけてはポニーキャニオンより

キャストを一新した新版アニメが4巻構成で発表された。

ボーイズラブという括りで考えるならばここから約2年後、桜桃書房より発売された

『おさかなはあみの中』（原作：乱魔猫吉 / 1994.7.20 発売）を嚆矢と捉える

見方も出来る。

1992 年 8 月

日本 SF 大会【大会毎愛称：HAMACON】の自主企画として

『やおいパネルディスカッション』が開催される。

記録：http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi_pd.htm

【ミリオン出版『DEEP』創刊号（1993 年 9 月）にも掲載有】

以後 SF 大会の自主企画として毎回開催された。

2013 年には独立企画化し、2013 年 9 月 29 日・東池袋の

コミックカフェ・cafe801【カフェハチマルイチ】を会場に

『やおいこん #01』として開催された。

<http://gender-sf.org/yaoicon/yaoicon01.html>

1992 年 12 月

角川文庫よりルビー文庫創刊。

但し純然たる創刊ではなく先行して存在したスニーカー文庫（87 年創刊）からの独立創刊と言う形であり、更に言えば JUNE（後に BL も取り扱う）専門レーベルとして創刊された訳でも無い。

スニーカー文庫に於いても栗本薫「終わりのないラブソング」 / 三田菱子「鼓ヶ淵」 / 尾鯉あさみ「舞え水仙花」 / ごとうしのぶ【タクミくんシリーズ】はじめ原田千尋や野村史子らの諸作品が刊行されていた。（1990 年 2 月頃以降とみられる）

これ等諸作品はルビー文庫に移行した。

なお創刊から暫くの間のラインナップを見る限りでは集英社コバルト文庫の発展形を目指していたのでは無いかと考えられる。

1992 年 12 月

青磁ビブロスより BE×BOY コミックス創刊。

ボーイズラブ漫画の専門レーベルとしては第一号と認識して良いかと思われる。

浜田翔子『夢の子供』は第 1 巻が PATSY コミックスから刊行され、第 2 巻以降こちらのレーベルで刊行。後に第 1 巻もこちらから再刊された。

1992 年 12 月 25 日

二見書房より耽美小説シリーズとして“Velvet Roman シリーズ”刊行開始。

初回配本された神崎春子『ベイシティ・ブルース』は元々『小説 JUNE』及び同じサン出版から刊行されていた同性愛者向け雑誌『月刊さぶ』に掲載されていた作品である。

また同作品は後年二見書房が創設したボーイズラブ作品レーベル“CHARADE BOOKS”にボーイズラブ作品として採録された。

1992 年 12 月 29 日

『コミックマーケット 30's ファイル』（青林工藝舎・刊 / 2005.7.25 初版）によればコミックマーケット 43の時点でコミケ内でのジャンル区分として

『創作（JUNE）』が存在した事が窺える。

【於：東京国際見本市会場。1992.12.29 ~ 1992.12.30】

1993 年 1 月 9 日

白夜書房より『コミケーしょんらんど』（すたんだっぷ・編）刊行される。

【執筆者：めで鯛・常盤易成・沢田梢・石崎有希子・Dr. モロー】

往時のコミックマーケット及びやおいも含めた同人誌の世界を垣間見る事が出来るギャグフィクション仕立ての現場報告。

1993 年 2 月【日次不詳】

ふゅーしょんぷろだくとより

『上田信舟+藤たまき—真田シスターズ 同人作家コレクション 1』

（ISBN:489393127X）が刊行される。

現在まで各社で連綿と続く同人作家商業版個人選集の刊行はここに始まると思われる。

1993 年 2 月 20 日

SF 小説家・野阿梓、初の耽美（やおい）単行本となる『月光のイドラ』を中央公論社【現・中央公論新社】より上梓。

JUNE 関係者を除いては初の男性作家執筆による作品単行本化であるか？

※（やおい）の註書きは野阿梓当人ホームページ内の記述に因った。

野阿梓ホームページ Self-Reference 1990 年項より。

<http://homepage3.nifty.com/Noah/noah.htm>

参考 <http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi.htm>

1993年3月20日

漫画家・佐藤真理乃が単行本『えんじえる大戦争』をスタジオ・シップより上梓。

【断続連載作品。作品初出は90年から93年初頭にかけて】

往時のナマモノやおいの世界を創り手の側から記録したと言う体の作品。

【作中取扱いジャンルのモデルとなったのはTMNとB'z】

1993年4月20日

白夜書房より『耽美文学・ゲイ文学ブックガイド』【柿沼英子・栗原知代 編著】刊行。

総勢20人のライターによる往時時点の精選文学ガイド。

タイトル通り往時隆盛し始めた耽美・JUNE小説以前のゲイ文学にまで視野を広げ、自己陶醉に基づく賛美を極力排して編まれた一冊。

2013年現在、再版・復刊はされていない。

1993年5月

青磁ビブロスよりBE×BOYノベルズ創刊。

ボーイズラブ作品を軽装ノベルズ形態にした初めてのレーベル。

1993年5月22日

太田出版よりイトウセイコ著『ダウン系1』が刊行される。

当時の実在中堅漫才師（当時）であったダウントウン【浜田雅功・松本人志】周辺から想を得た二次創作を収録した一冊。

イトウセイコのダウントウン二次創作（界限用語で言う「ナマモノ」の一種）は最終的に4冊商業出版で刊行された。

*『ダウン系2』（1994年5月30日初版 / 太田出版）

*『イトウセイコ 同人作家コレクション8』

（1995年2月初版 / ふゅーじょんぷろだくと）

*『ダウン系3』（1996年1月31日初版 / 太田出版）

1993年8月1日

角川書店あすかコミックスDXより中田雅喜『蠍座の少年』刊行。

JUNE初出のシリーズ作品ではあるが継続して『獅子座の男』『双子座の天使』

『牡牛座の恋人』『魚座の騎士（ナイト）』とあすかコミックスDXにて

刊行され続け、そのまま現在は品切れ。

あすかコミックスDXよりBL用レーベルのCL-DXが分岐した事実との

因果関係は不詳。

1993年11月

コミック雑誌『magazine BE×BOY』（青磁ビブロス）独立創刊。

1993年11月1日

CD-JUNEの一点として『間の楔 DARK-EROGENOUS』がマガジン・マガジンより

通販専用でリリースされる。この界限初のCDメディア作品と思われる。

参照資料：

『JUNE』1993年11月号（73号）「間の楔 NEWS」、1995年9月号（84号）裏表紙

ボーイズラブと言う括りで限定するならばほぼ一年後の1994年12月21日に

BE-BOY VIDEO（青磁ビブロス）からリリースされた【取扱い：大映ダイレクトサービス】

『LESSON xx～5回目でやっとサクセス～』（原作：おおなぎえい；CD用

書き下ろし作品）を嚆矢と捉える事も可能かと。

この原作は後におおなぎえいの著書『LESSON XX 2』に採録された。

1994年1月6日

太田出版より『コミケ作家ガイド』刊行。執筆者総勢16人。

往時のコミックマーケット参加やおいサークルの現状にアンケート・インタビュー

及び考察で肉薄した。故・鳥羽笙子が装丁画を担当。

1994年1月15日

桜桃書房より『サークルガイドブック』刊行。

キャッチコピーに“同人サークル500以上掲載!!”と謳う。

やおいサークルのみと言う視点ではなく、女性作家を擁するサークルを取り扱うと

言う視点で編まれたものか。

作家及び同人誌即売会（COMITIA）、印刷所（曳航社）のインタビュー採録。

1994 年 3 月 1 日

雑誌『Charade』（二見書房・刊）創刊。
キャッチフレーズは“BOYS' LOVE for GIRLS”。
白夜書房以外で「ボーイズラブ」という言葉を使った嚆矢となる。
定義は明示されていないが現行にかなり近いものであると考えられる。

1994 年 8 月 1 日

マンガ情報誌『ぱふ』（雑草社）8 月号にて
特集「創刊ラッシュで戦国時代突入—『BOYS LOVE MAGAZINE』完全攻略マニュアル」が
組まれる。（52～60 ページ）
「ボーイズラブ」という言葉の伝播に一役買った特集では無いかと思われる。
また、分野を指す言葉として「ボーイズラブ」が共有されたのもこれ以降ではないかと思
われる。

1994 年 10 月 15 日

『b-Boy 17 特集 ショタコン』が青磁ビブロスより刊行される。
商業出版におけるショタアンソロジーの嚆矢とされるもの。

1994 年晩秋

後にビブロスの子会社と確認されたハイランド創業はこの頃と思われる。
（アーカイブ上に残るサイトデータに沿革が記載されていない為、刊行物の初版日より推定）
当初は二次創作アンソロジー専門版元として機能していたが、後にオリジナル作品の刊行も
するようになる。

1994 年 11 月

二見書房より CHARADE BOOKS 創刊。
ノベルスもコミックも同一レーベルの下で刊行。
『ボーイズラブ』をレーベルのキャッチフレーズとして明確に持ちいた嚆矢であるか？
ここより発展したシャレード文庫は 1998 年 1 月創刊。
キャッチコピーは「爽やかボーイズラブに夢中！！」。

1994 年 11 月 9 日

『COMIC イマージュ』VOL. 16
（1994. 11. 9 初版 / 白夜書房 / ISBN : 4893674358 / すたんだっぷ；編）の
読者投稿頁・「イマージュポケット」にて、〈BOYS LOVE〉の略称として
編集部から「BOVE」が提示される。

**『ぱふ』の特集の煽りの如く 90 年代前半頃は雑誌が創刊されては
消えてゆくという現象が良くみられた。詳細は略すが B5 版（大判）の
雑誌も決して少なくはなかった。ただそれらに掲載された作品が単行本に
採録された例はかなり少ないと思われる。**

1995 年 5 月 5 日

ショタジャンルオンリー同人誌即売会の代名詞ともなった“ショタケット”の
第 1 回が東京にて開催される。
<http://homepage3.nifty.com/syotaket/>
以降 2000 年度を除き 2012 年まで番外も含め都合 19 回開催された。
<http://dic.pixiv.net/a/%E3%82%B7%E3%83%A7%E3%82%BF%E3%82%B1%E3%83%83%E3%83%88>
【運営サイドのカウントでは 2012 年現在「第 16 回」】

1995 年 11 月 1 日

『JUNE』【所謂「大 JUNE」】、通巻 85 号にて B5 サイズでの刊行を終える。
【国立国会図書館書誌を参考に記述訂正】
86 号から俗称 visual JUNE として（編集部自身は「大 JUNE」を呼称）、
232 × 300（mm）にサイズ変更したが通巻 87 号にて休刊に至った模様。
（第 87 号【1996 年 4 月発行】には次号予告掲載）
以後 JUNE ブランドの雑誌の混迷が少々有り。
興味深い記事として通巻 84 号【1995 年 9 月刊行】304 頁に
「JUNE 実写ビデオプラン大募集！」との記事が掲載されている。
後年刊行されたムック『恋 JUNE』付録 DVD に収録されたオリジナル実写 BL 作品の
構想はここに端を発するものか？
参照：
『恋 JUNE』VOL. 6 付録：撮り下ろしゲイビデオドラマ 40 分「天使とオレ」天使編
（2008 年 4 月 20 日発行 / マガジン・マガジン）

1995 年 12 月 6 日

オリジナルアンソロジー『ブレス Special 特集ロリショタ』【ひかり出版】刊行。
ロリショタという言葉が商業出版で使用した嚆矢か？なお定義は明示されず。

1996 年 1 月初頭頃

恐らく世界初となるやおい専用会員制サイト『同人倶楽部（矢追漫画ビル）』が開設される。

<http://www.yaoui.com/>

国内だけではなく国外にも門戸を開放する予定だった様子だが、98 年 7 月頃には閉鎖に至っていたと思われる。【Internet Archiveからの確認】

現在このドメインからたどり着けるのは海外の会員制転載サイト。

1996 年 1 月

太田出版より四谷シモーヌ著『悪の華 インコ真理教入会マニュアル』刊行される。
ナマモノ本の商業出版。往時の社会現象と相まって話題を呼ぶ。

1996 年 2 月 1 日

『JA:KOW』VOL.1（桜桃書房/1996.2.1 初版 / ISBN:4756702864）表紙キャッチコピー中に「GUYS LOVE」と記載。語の初出か？

1996 年 3 月 1 日

フェニックス・エンタテインメント制作、ビーム・エンタテインメント販売による SF ロマンアニメーション『銀河帝国の滅亡・外伝 蒼き狼たちの伝説 VOL.1 7 番目の男』が通販開始となる。【レンタル・店頭販売開始は同年 12 月 18 日】

ゲイ向け雑誌「薔薇族」（当時の版元は第二書房）の協力の下作成された SF としても骨太な作品。

広告掲載媒体は「薔薇族」及び「manga 純一」（光彩書房）。

性描写も含む完全版【X 版。VHS 及びレーザーディスク】と及び

性描写をカットした短尺版【R 版。VHS のみ】が存在した。

同作品は一時期諸事情により市場流通から姿を消していたが、2005 年 3 月 4 日に

デジタルワークスエンタテインメントの BL アニメレーベル・Slash より

通販専用 DVD 作品として復刻された。

なおこの作品は海外でも『Legend of the Blue Wolves』等のタイトルで周知されており、深く愛好される向きも居る。

参照：

「Ask John: What's the Background of Legend of the Blue Wolves?」

<http://www.animation.net/blog/2005/03/31/ask-john-whats-the-background-of-legend-of-the-blue-wolves/>

※記事で紹介されている日本のファンサイトとはぶどううり・くすこ制作の情報ページ。

現在の URL <http://xqo.ooh.jp/bw/> 及び <http://xqo.ooh.jp/bw/com.htm>

Slash <http://www.slash-jp.com/>

フェニックス・エンタテインメント <http://www.phoenix-ent.co.jp/>

1997 年 1 月 5 日

桜桃書房より『女の子向け 同人誌サークルガイドブック』刊行。

同社提唱の YAOI 専用マーク “PINK DeLIGHT” の下刊行される。

東京イベント限定と言う感覚ではなく、全国イベント向けを目指したものか？

1997 年 2 月 9 日

オリジナル JUNE 系同人誌即売会 “J. GARDEN” 1st が開催される。

於・池袋サンシャインシティ <http://www.jgarden.jp/>

June 出版部と運営である J. GARDEN 事務局に直接の関係は無し。

2013 年 9 月現在開催より 34 回目を数えるとの事。【第 36 回まで開催予定提示】

1997 年 7 月には JUNE コミックスとしてアンソロジーが二冊発行された。

【『やらしてくんない？ J★GARDEN アンソロジー 1』

『放課後まで待てない J★GARDEN アンソロジー 2』】

開催日情報は松成久美子女史のサイト “くみくみアートキッチン” ・

2013 年以前のお仕事情報を参照した。 <http://www.kumikosan.com/>

1997 年 7 月発行の別冊 JUNE 7 月号【マガジン・マガジン刊】には

同年 10 月 5 日開催の第三回の広告が掲載されている。

1997 年 3 月

版元としては中堅所に位置したヒカリコーポレーション（旧社名：ひかり出版）、
ほぼ予告無しに倒産。同社から刊行された作品群の内再版されたものは極めて少ない。

1997年4月
青磁ビブロス、ビブロスに社名変更。

1997年8月1日
マガジン・マガジンより SUN-MAGAZINE MOOK として JUNE 編集部・編の『[新世紀エヴァンゲリオン JUNE 読本] 残酷な天使のように』刊行される。一方的な解釈ではなくあくまで原作起点の解釈を中心に。

1997年9月15日
『b-Boy Zips』（ビブロス・刊）4にて読者投稿の一節に「BOY'S LOVE」と記される。（271ページ）
ビブロスの刊行物に「ボーイズラブ」と掲載された最初であると思われる。

1997年9月26日
岡田斗司夫編著『東大オタク学講座』（講談社）刊行。紙面にてやおいへの言及あり。
[第十講 終わりになき「やおい」の野望] 客員講師：青木光恵
<http://www.netcity.or.jp/OTAKU/okada/library/books/otakusemi/No10.html>
オタク文化論講座の一コマを採録。二次創作寄りの言及。

1997年10月20日
唐沢俊一・著『トンデモ美少年の世界』（光文社文庫）刊行。
作品を巡るエッセイではなく、ナマモノ寄りの事象を巡るエッセイ。

1998年7月30日
岡田斗司夫：編『国際おたく大学』（光文社）刊行
渡辺由美子・筆「ショタコンの研究」を所収。
同嗜好研究文献としては恐らく初めてのもの。

1998年12月5日
『コミック JUNE』（マガジンマガジン・刊）VOL.4で現行形式となる。
キャッチコピーは“21世紀を愛で切り裂く原色のボーイズコミック誌見参!!”。

1999年6月5日
「活字倶楽部 13 '99 春号」（雑草社/1999.6.5発行/雑誌 14079-06）掲載の
ひらのあゆ作四コマ漫画（111頁掲載）にて用語『メンズラブ』初出か？。
※単行本『迷宮書架』（雑草社/2003.4.23初版/ISBN:4-921040-04-4）111頁に再録。

1999年8月11日
ネット上で「腐女子」の使用目撃例が報告される。
【日記・Diary:1999.08まで（赤穂 昭太郎 / Shotaro Akaho）
http://www.geocities.jp/shotaro_akaho/diaryj-199908.html】
腐女子関係の最古のネット記録と思われる。
同時にこれは出典を明記できる現存最古の記録であると思われる。

2000年3月頃
電子書籍サイト・パピレスがボーイズラブ小説の取り扱いを開始した模様。
<http://www.papy.co.jp/>
【Web Archive：2000年3月3日及び3月4日の記録より推定】
特集見出しとして以下の一文が躍った。
『女の子たちに大人気の“やおい”小説って何？ちょっと危ない美少年の世界！』

2000年【月次不詳】
BL作品レビューサイト“ホモミシュラン”開設か？
<http://www.ja-na.com/hm/>
【年次同定はWebArchive上の最古のデータ・2004年2月19日のものよりたどれた
「2000年ホモミシュラン・オブ・ザ・イヤー集計結果発表！」
（<http://www.ja-na.com/HM/2000rank.html>）に拠った】
個人開設サイトでありながらクロスレビュー形式をとり可能な限りの
客観レビューを目指した。しかし参加者個々の筆致のみを模倣する
個人が居たであろう事も否定は出来ない。

2000年6月
角川ルビー文庫より『美少年の恋』（水田菜穂：著、ヨン・ファン：原案 /
ISBN:4044412014）刊行。
同名映画のノベライズ。翌月には木戸サクラ・画で漫画化もされる（ISBN:4048532146）。
海外のボーイズラブ表現輸入の先駆けであるか？

2000年8月7日

画像作品展示ギャラリーを主体とした SNS サイト・devianArt が開設される。

<http://www.deviantart.com/>

性的描写展示に関しては現在もかなり制限有。

2000年8月10日

株式会社ソフパルの女性向けゲームブランド・プラチナレバーより

『好きなものは好きだからしょうがない!!— FIRST LIMIT—』が発売される。

初めての商業ボーイズラブゲーム。

http://www.softpal.co.jp/platinum_me/project/

のちに角川書店及びマリン・エンタテインメントも合流してマルチメディア展開を見せた。

2001年2月頃

『JUNE』公式サイト「JUNE-NET (ジュネット)」開設。

<http://www.june-net.com/>

往時は交流サイトとしての面とアーカイブサイトとしての面を持ち合わせていた。

※全作品を網羅する試みとして「ジュネ作品リスト 1978-2000」なる検索コーナーが存在した。

2001年9月

米・カリフォルニア州にて総合イベント“YAOI-CON”開催される。

以降年一回開催され、日本からも開催毎にゲストを招く様になる。

<http://yaoicon.com/>

《日本からの招聘ゲスト一覧》

2001 氷栗優・黒川あづさ・新宿西口・米沢嘉博

2002 新田祐克

2003 櫻井しゅしゅしゅ

2004 やまねあやの

2005 こだか和麻・氷栗優

2006 わたなべあじあ・川唯東子

2007 沖麻実也・川原つばさ・高永ひなこ

2008 大和名瀬・かいやたつみ

【新田祐克が招聘される予定であったが諸事情あり大和名瀬と交代】

2009 南かずか(みなみ遥)・宮本佳野・立野真琴

【ほぼ直前にみなみ遥が病欠となる】

2010 やまねあやの・置鮎龍太郎・木内秀信・高永ひなこ・宮本佳野

2011 稲荷家房之介

2012 小笠原宇紀

なお、同イベントはサークル組織とみられる美青年屋 <http://www.biseinen-ya.com/> により運営されていたが 2011 年以降、アメリカの出版社 Digital Manga Publishing の手による運営となった。

参照：<http://en.wikipedia.org/wiki/Yaoi-Con>

2001年10月12日

独・ラインラント＝プファルツ州 Trier (トリーア) にて

総合イベント“BishounenCon 2001”開催される。

<http://www.bishounencon.de/>

Webarhive 上で記録を訪ねる事が可能。

主催は YaoiGermany <http://www.yaoi.de/> サークル組織と思われる。

2002年9月及び2003年9月には同じ場所で“BishounenCon 2002”

“BishounenCon 2003”がそれぞれ開催された。

以降開催の痕跡は無し。

YaoiGermany は 2012 年 3 月 24 日に活動休止。サイトも消失。

2001年11月25日

『b.p.m.—Boys Paradise Magazine—』#01 (工学社・刊) 刊行

BL ゲーム紹介とインターネット活用術と同人活動指南、そして

801 とゲイの橋渡しを多様な解説で目論むと言う贅沢な内容の一冊。

但しこの一冊のみで後続はいまだ無い様子。

2002 年【月次不詳】

海外ゲイビデオ作品輸入メーカー・S.I.G. 創業。

<http://www.sig-inc.co.jp/>

(現在この URL では全くの別会社が営業活動を行っている。)

自社流通ビデオ作品に対し“ボーイズラブビデオ”と呼称。

往時の状況は Web Archive で確認する事が出来る。

※傍証メールマガジン記事：

【案内】 S.I.G.・ボーイズ・ラブ・コレクションDVD 2 作品をリリース

<http://www.milkjapan.com/2005km02.html>

同社は 2005 年【月次不詳】に SIG-X と改称。

<http://sigx.cart.fc2.com/>

なお、同社代表の星由美子は2004年4月から約一年間、ハンドルネーム “avalon” を
用い、日本版 all about に

「美少年・美青年の花園☆ボーイズラブへ、ようこそ! avalon の Boys Love in the City」
なる自社取扱い作品宣伝も含めた海外実写作品紹介連載コラムを掲載していた。

【現在はデータの痕跡も一切なし】

2002 年 1 月 7 日

『magazine BE×BOY』(ビブロス刊) 1 月号発行。

キャッチコピーは「夢見る BOYS LOVE マガジン★」

以降表紙キャッチコピーに“BOYS LOVE”を盛り込む。

2002 年 1 月 8 日

太田出版よりオタク学叢書第 7 巻として『アニパロとヤオイ』【西村マリ著】刊行。

サンプルとして引用された同人誌の多くは鎧伝サムライトルーパーのもの。

2002 年 8 月

「オトコのヤオイ好きの憂鬱」

<http://www2.bbbspink.com/801/kako/1029/10299/1029955810.html>

4 番レス(2002 年 8 月 22 日記述)にて「腐女子」との洒落合わせと
言う形で「腐兄」と言う 男性やおい愛好者の自称が提唱される。

また 69 番レス(2002 年 8 月 29 日記述)にて「腐男子」が一般的に
用いられていると発言されたが 論拠等は示されず。

なお、この時点で腐男子にも腐兄にも百合好きと言う属性は付記されていない。

2002 年 10 月 1 日

『小説 JUNE』(マガジン・マガジン刊) 2002 年 10 月号【通巻 144 号】

特集《男と男の抒情詩! 『さぶ』大辞典》掲載インタビュー(142 頁~)に於いて

『comicJUN』創刊編集長・『さぶ』創刊編集長を歴任した櫻木徹郎

(当時『小説 JUNE』編集長。現マガジン・マガジン専務取締役)が

「『さぶ』は元々〔作家〕ジャン・ジュネの世界観を考えて『ジュネ』と言う
誌名になる筈だった」(要旨) と発言。

2003 年 1 月 10 日

茜新社よりオリジナルシヨタアンソロジー『好色少年のススメ』創刊。

成人向けマークを付され区分されたシヨタアンソロジーの嚆矢。

2003 年 6 月 7 日

B6 版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?恋!』13(光彩書房・刊) 読者コーナーにて
編集部から読者への呼びかけとして「腐女子」が用いられる。(168 ページ)

現在明確に確認できる「腐女子」活字化の嚆矢か?

2003 年 7 月 3 日

東京・弥生美術館に於いて『美少年コレクション展~昭和のイラストレーションにみる~』
開催される。同年 9 月 28 日まで。

→ <http://www.yayoi-yumeji-museum.jp/exhibition/yayoi/0307.html>

描き留められた『美少年』から時代を垣間見る試み。

なおこれに先立ちガイドブック的な一冊として『昭和美少年手帖』が河出書房新社より
刊行された。編者は弥生美術館学芸員(当時)・中村圭子。

2003 年 9 月 22 日

雑草社より『別冊活字倶楽部 BL 小説(ボーイズラブノベル)パーフェクトガイド』刊行。

雑誌扱い。BLをまだボーイズラブと読み下している。

2004 年 【月次日時不詳】
アメリカにて専門出版社 “ YAOI PRESS ” 発足。
WEB サイト稼働及び実質的な刊行開始は 2005 年に入ってから。
【 Web Archive 及び Amazon の検索に拠った】
<http://yaoipress.com/>

2004 年 【月次日時不詳】
ドイツにて専門出版社 “ Fireangels Verlag ” 発足。
WEB サイト稼働及び実質的な刊行開始は 2005 年に入ってから。
【 Web Archive 及びサイト標記に拠った】
<http://www.fireangels.net>

2004 年 2 月 20 日
三修社より対大学受験用と銘打った英単語例文集『恋する英単語』刊行。
BL 漫画家・島崎刻也が挿画を担当。
編集協力はエルスタッフ。
【↑ 1993 年創設。光彩書房の BL 及び TL 漫画編集を往時担当。
2007年、株式会社ヴェルベット・ポウとなる。 → <http://www.velvet-paw.co.jp/>】
三修社紹介ページ → http://www.sanshusha.co.jp/topics/topics_koikan.html
内容の展開は島崎の作品『恋はいつも嵐のように』に拠る所が大きい。

2004 年 4 月
『小説 JUNE 』、『小説 JUNE DX 』と誌名を変え、通巻 153 号で休刊。

2004 年 5 月 1 日
『ぱふ』(雑草社・刊) 2004 年 5 月号巻末掲載「ぶらり途中下車の旅」池袋(東口方面)編
文中に於いて「乙女ロード」の名称が始めて用いられる。

2004 年 初夏頃【月次不詳】
山下書店新宿本店(当時)に在籍していた永嶋理恵子(ながしまりえこ)が
販売戦略として BL 作品の棚にひぐちアサ作「おおきく振りかぶって」を配置し、
「耽美」「BL」「萌え」の語をちりばめ、二次創作を煽り立てる様なPOPも
付していた、との事。8 月初頭頃までその配置は続いた模様。
参考資料:
WEB 本の雑誌・連載堂書店・「錦町のお嬢」※元「新宿のお嬢」ながしまりえこ
第 16 回 <http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/02/162000.html>
第 20 回 「～ごめんなさい。心からの謝罪をみえない貴方に～」
<http://www.webdoku.jp/rensaido/backnumber/nagashima/2004/08/23/122000.html>

2004 年 7 月 1 日
はてなダイアリーにて flage (ふらーじゅ) 氏がブログ「腐男子の書齋から」を
展開開始。
(<http://d.hatena.ne.jp/flage/>)
【参照記事：腐女子の注目を集める腐男子のブログ
<http://d.hatena.ne.jp/izumino/20040716/p3>】
腐男子をタイトルに冠したブログの嚆矢と言えよう。
先行し評判になっていた三谷ちず管理の腐女子ブログ・
「腐女子の行く道、萌える道」で定着しつつあった挨拶・
『～～～腐女子です』に倣い、『～～～腐男子です』と言う
挨拶を用いたりしていた。
【「腐女子の行く道、萌える道」 <http://fujoshi.moe-nifty.com/chizu/>
2003.12.14 ～ 2004.8.12 稼働】
後にブログは 2004 年 8 月 6 日以降 blogzine (<http://fudansi.blogzine.jp/>)
で展開され、更にアマーバブログ (<http://ameblo.jp/fudanshi/>) に
移転して展開された。Blogzine からアマーバブログへの移転日
については記録漏れ。
記事記録から読み取れる限りではアマーバブログに 2005 年 4 月段階で
移転したらしい。
WEB アーカイブ及びそのリンク追跡によって各地点の記録を
ある程度まで追跡する事が可能になっている。
後述のサイズー取材時(2005 年 6 月号掲載)には blogzine の
アドレスが記述されている。
「腐男子の書齋から」は 2007 年 12 月末日、完全更新停止。
【投稿記事は 11 月 26 日付のものが最終。12 月末日の記事は
予告があったが投稿されなかった模様。】
現在 WEB 上から元データは消失している。

2004年8月11日

B6版オリジナルアンソロジー『恋だろ!?恋!』21 (光彩書房・刊) 読者コーナーにて編集部から読者への呼びかけとして「腐男子」も「腐女子」とともに用いられる。恐らく「腐男子」が活字になった嚆矢か。

2004年8月25日

花丸編集部：編『ボーイズラブ小説の書き方』(白泉社)刊行。
小説の教則本ではなく、投稿 How To 本の色合いが濃い一冊。

2004年9月頃【日時不詳】

渡辺直美監督による映画「青春801あり!」が製作される。
http://www.tokyo-igff.org/2005/w_801.html
その後の公開経緯を見る限り、劇場公開を意識したものでは無いと思われる。

2004年10月

マガジン・マガジンよりコミック誌『it's BOY's LOVE』創刊される。
サン出版～マガジン・マガジンと言う流れの中で初めてボーイズラブを表に打ち出したものであるかと。
同誌は2005年6月刊行のVOL.5をもって『BOY's LOVE』と改題。
現在に至る。

2004年10月頃【詳細日次不詳】

ネット上の用語辞典“《ばら☆あみ》的同人用語の基礎知識”に『腐女子』の詳細解説が掲載される。文意は現行のものと大差なし。
【WebArchiveによる遡上。独立解説ページ自体のURLは現行と違うので注意】
<http://www.paradisearmy.com/doujin/>
以降散見される腐女子語源に関する文言はこの情報の伝聞によるものか?

2005年1月

PCゲーム『好きなのは好きだからしょうがない!!』がアニメ化され
地上波放映される。ボーイズラブ作品の初TVアニメ化。

2005年1月25日

Wikipediaに「腐男子」項目が登場。「腐女子の対義語」として始まった記述は現在様々な解釈が入り混じったものになっている。
因みにWikipedia上で腐男子=百合作品を好む男性と記述が現れたのは
2006年8月27日が最初。

2005年2月18日

米国・DigitalMangaPublishingのボーイズラブ作品専用サイト『Yaoi-manga.com』が開設される。
ボーイズラブ作品専用レーベル『Yaoi-manga』も創設される。
<http://yaoi-manga.com/>
同サイトは2006年7月に『Junemanga.com』へと名を変え今日に至る。
レーベル名も『JuneManga』となる。
<http://junemanga.com/>

2005年2月18日

米国にてYA01専用ギャラリーサイト『y!Gallery』が創設される。
<http://www.y-gallery.net/>
「the art gallery for male/yaoi/boy's love art」と謳う。
無料で利用できる絵描きの交流サイトとして今日まで継続。
(現在では小説発表の場としても利用されている。)
なお、その前身は2004年に開設された『ワイ!ホスティング』 <http://www.y-hosting.net/>。
YA01作品発表者用の無料ホームページサービスであった。

2005年4月26日

角川出版刊行『comic 新現実』vol.4に裏特集「『やおい』の起源」掲載される。
431頁～509頁。特集の年表は1994年の時点で中断されている。

2005年5月25日

モエールパブリッシングより
『BoysLove[BL] サークルパーフェクトガイド』2005 SUMMER 刊行される。
用途としては完全な同人サークルガイドブック。左綴りで刊行される。
同年冬には冬コミ対応版として『2006 WINTER』が刊行された。
こちらは右綴りで作品再録有。

2005年6月1日

『サイゾー』6月号 インフォバーン刊
特集「ザ・要注意人物」の中の一項として「腐男子」が取り上げられる。
76~77 ページ (見開き)
添えられたイラストを含めやや恣意的な解釈が見受けられる記事。

2005年7月29日

読売新聞夕刊 (一部地域除く) 掲載連載記事・『カラン卿の短歌魔宮』 (選者: 黒瀬珂瀾)、
第十九夜のお題を「ボーイズラブ」として展開。7月19日締め切りで短歌が公募された。
記録 → <http://www.kurosekaran.com/erin/backnumber/200507.html>

2005年10月1日

別冊ぱふ『BLM ビーエルマガジン』 (雑草社・刊) 創刊
ボーイズラブ作品刊行専門情報誌の先駆では無いと思われる。
またこの本のタイトルは公的に BL をそのままビーエルと読み下した
先駆であるかと思われる。惜しくも2号にて終了。

2005年12月1日

『Newtype』 (角川書店・刊) 12月号掲載記事
「2005年もの申す」掲載解説 (106 ページ) にて
乙女ロードを「通称・腐女子ストリート」として紹介。

2005年12月初頭【詳細日次不詳】

腐女子専用 SNS としては恐らく嚆矢であろうと思われる
『桃砂塔 SNS (仮)』 開設される。 → <http://momozatou.sumomo.ne.jp/>

2005年12月【日次不詳】

BL喫茶 [男装ギャルソン喫茶] の元祖と思われる “B:Lily-rose” 開店。
<http://lilyrose.bufsiz.jp/> → <http://www.b-lilyrose.com/>
<http://id7.fm-p.jp/35/BLR/>
男性客は完全に入店禁止の体制を敷く。
2009年12月24日をもって閉店。
その後2012年9月25日、一日限定カフェ “B*Little Roost” と
して復活。

2005年12月26日

太田出版より『やっぱりボーイズラブが好き~完全 BL コミックガイド~』刊行。
ISBN 付の商業 BL 漫画専用ガイドブックとしては恐らく初めて。

2005年12月27日

NHK 教育テレビ『知るを楽しむ 私のこだわり人物伝~江戸川乱歩・幻影城へようこそ~』
第4回「みんな遊ぼう~怪人二十面相ハ私デス~」中に語り手の大槻ケンヂが
『怪人二十面相はショタコンである』と言う趣旨の解説をする。
先だって発行された番組用テキストに於いてもその解説は一字一句洩らさず記載されている。
番組テキスト
『NHK 知るを楽しむ 私のこだわり人物伝』 2005.12.1 発行
ISBN4-14-189136-3

2006年1月4日

愛好者専用 SNS 『やおい SocialNet』 開設される。 → <http://bxb.jp/>
2ちゃんねる 801 板を起点とする SNS。18 禁設定。
【ソーシャルネット】 2ch SNS 【mixi】 <http://mimizun.com/log/2ch/801/1129460765/> の
820 番が初出。後に独立スレッド “【801】やおいそーしゃるねっと【SNS】” も建つ。
WEBArchive からの推測では2007年12月10日、閉鎖に至ったと思われる。

2006年2月1日

JTB パブリッシングより『もえるるぶ 東京案内 2006年版』刊行。
56頁から65頁にかけて腐女子・乙女特化池袋案内が特集される。
この項のみキャラクターデザインを高河ゆんが担当。

2006年3月16日

『オタク女子研究 腐女子思想大系』 (杉浦由美子・著/原書房・刊) 刊行。
腐女子を全面的にタイトルに掲げた書籍としては初めてのものかと思われる。

2006年3月24日
執事をコンセプトとした喫茶“Swallowtail”が池袋に開店。
<http://butlers-cafe.jp/> <http://blog.livedoor.jp/ks2153/>
以降林立する執事喫茶の走りとなる。現在も継続営業。
ボーイズラブとは直接関係しないが、参考事例として記述。

2006年4月
ビブロス倒産。系列会社のハイランドも倒産する。
2006年4月17日
男装喫茶“80+1 (Eighty Plus One)”、東池袋に開店。
<http://80plus1.net/> <http://com.nicovideo.jp/community/co1138737>
ボーイズラブがコンセプトであるとは明言せず。
一部時間帯を除き男子禁制の運営方針。
現在も営業継続中。

2006年4月18日
WEB上で活動していた漫画家・小島アジコがチベット801名義で
漫画付き日常雑記ブログ『となりの801ちゃん』を開設。
<http://indigosong.net/> → <http://d.hatena.ne.jp/indigosong/>
当時交際していた女性（現在は夫人）が腐女子だったからと言う事で
彼女の日常の諸々をネタにし、腐女子としての内面を京都市北区御園橋801商店街の
マスコットキャラクターをパロディー化した姿で描きつつ記事は展開された。
なお、ブログの件は程なくして彼女の知る所となり（2006年8月7日付記事）、
小島は後に自身を総受キャラにした同人誌を刊行するに至った。
ブログは後に宙出版より単行本化（2006.12.14初版 / ISBN:4776793024）され、
現時点の既刊は6巻＋よりぬき版1巻。
それぞれ二度に渡るDVD頒布形態の実写ドラマ化（2007.9.5発売 / 2011.10.5発売）も
ドラマCD化（2008.4.23発売 / 2008.10.22発売）もされた。
2008年8月19日付で京都アニメーション制作による地上波アニメ放映が発表され、
公式サイトも公開されたが、同月28日には公式サイトが消失し、詳細の明言は
されなかったものの計画自体撤回され話自体無かった事にされた模様。
公式サイトURL <http://www.tbs.co.jp/anime/801/>

2006年5月
リブレ出版発足。

2006年5月12日
アクションコミックス・コミックHIGH（双葉社）より
紺條夏生・著「妄想処女オタク系」単行本第1巻が刊行される。
腐女子を主人公に据えたラブコメディ。
2010年9月11日、第7巻の刊行をもって完結。

2006年9月8日
メンバー全員腐女子だと標榜するアイドルグループ・中野腐女子シスターズ結成される。
【→中野腐女シスターズ / 2010年4月28日改称】
【→中野風女シスターズ / 2011年7月16日改称】
2011年11月25日、音楽活動休止が発表される。
同グループの男装形態・腐男塾は2008年9月24日にCDデビュー。
メンバー全員が（中野腐男子学園出身の）腐男子であると標榜。
【→風男塾 / 2011年7月16日改称】
彼等をキャラクターとした漫画『風男塾物語』も刊行された。
【集英社・刊。種村有菜・作。全一冊。
初出：「マーガレット」2011年16号～2011年23号】

2006年10月
大阪・松竹座において「染模様恩愛御書（そめもようちゅうぎのごしゅいん）」上演される。
【発表当時の演目は「蔦模様恩愛御書（つたもようちゅうぎのごしゅいん）」。
俗称「細川の血達磨」。】
明治22年（1889年）以来の再演との事。
筋書きに絡む衆道を公式サイトが暫しボーイズラブになぞらえた。
同舞台から派生したBL小説が『紅蓮のくちづけ—染模様恩愛御書』である。
【小学館パレット文庫スペシャル版 / 深山くのえ・文、西炯子：漫画・イラスト
/ 2006年11月1日初版】
なお同舞台は2010年3月、東京・日生劇場にて再演された。

2006 年 11 月 24 日
オリジナル実写作品『BOYS LOVE』、株式会社トルネード・フィルムより
DVD 発売される。

2007 年 3 月
米・POP JAPAN TRAVEL 社、“Yaoi Bishonen and Boys Love Tour”を企画し来日。
このツアーは後年“FUJOSHI PARADISE TOUR”“FANGIRL PARADISE TOUR”と名を変え定着。
http://web.archive.org/web/20070102205230/http://www.popjapantravel.com/tours/2007_yaoi.html

ツアー企画当初から目玉として漫画家・立野真琴を交えての食事会が設定されていた。
【これは 2007 年から 2011 年企画段階まで続いた企画である】
なお、2011 年 3 月 11 日の東北地方太平洋沖地震発生の影響で
2011 年 5 月に予定されていた“FANGIRL PARADISE TOUR”は中止。
以後再開検討中の状態が続く。

2007 年 4 月 11 日
後藤田ゆ花『愛でしか作ってません』（講談社）刊行。
【刊行発表時のタイトルは『ごめんね、ボーイズラブ』】
ビブロス倒産時の状況を基に描かれた小説。

2007 年 6 月 25 日
批評誌『ユリイカ』（青土社）の臨時増刊号として「総特集 腐女子マンガ大系」刊行される。
関連論客による見識の集大成。
同じ試みは 2007 年 12 月に臨時増刊号「総特集 BL（ボーイズラブ）スタディーズ」、
2012 年 12 月号「特集 * BL（ボーイズラブ）オン・ザ・ラン!」としても結実。

2007 年 7 月～10 月
韓国のボーイズラブ作品『絶頂』刊行される。
（全4巻/イ・ヨンヒ：作、安藤あき：訳/日本文芸社ニチブンKARENコミック文庫）
本邦にて初めて訳出刊行された海外のボーイズラブ漫画であるか？

2007 年 7 月 20 日
腐男子による WEB ラジオの嚆矢である「半熟☆びーえる帝国」配信開始。
パーソナリティ：半熟キング（ブログ「完熟☆腐男子」管理人）＋半熟王子。
後に半熟執事も参加【2008 年 8 月より】
BL 小説レーベル・アズノベルズ（イーストプレス）提供による（恐らく現在唯一の）
腐男子によるスポンサー付 WEB ラジオ番組。同番組は 2008 年 10 月 7 日配信分、
通算 22 回目をもって更新停止。

2007 年 9 月 1 日
トルネードフィルム制作実写オリジナル作品『BOYS LOVE 劇場版』、
劇場公開される。

2007 年 11 月 22 日
ごとうしのぶ原作の BL 小説【小説 JUNE 掲載作品】・タクミくんシリーズより
『そして春風にささやいて』が映画化され劇場公開される。
同シリーズからは最終的に 5 本の映画が製作された。

2007 年 9 月 10 日
日本において画像作品展示ギャラリーを主体とした SNS サイト・pixiv が開設される。
<http://www.pixiv.net/devianArt> より緩やかで、Y-gallery より厳しい性的規制が存在する。

2007 年 9 月 29 日
西欧の全寮制寄宿舎【ギムナジウム】をテーマにしたコンセプトカフェ、
“Edelstein（エーデルシュタイン）” 開店する。
<http://project02.blog48.fc2.com/> <http://www.cafe-edelstein.com/>
2010 年 3 月 31 日をもって閉店。

2007 年 12 月 7 日
宙（おおぞら）出版より
『この BL（ボーイズラブ）がやばい！ 2008 年 腐女子版』刊行される。
界隈の特化ランキング本としては恐らく初めての存在。
なおタイトルは 2011 年 12 月刊行の 2012 年度版まで『△▼年 腐女子版』。
2012 年 12 月刊行 2013 年度版よりは『△▼年度版』となる。
イメージカラーも 2012 年度版まではピンクに統一。2013 年度版はブルーに刷新された。

2008年3月12日
腐女子専用ポータルサイトと銘打った“腐女子.JP”開設。
<http://fujyoshi.jp/>
2008年3月21日
ボーイズラブ専門書評サイト“ちるちる”開設される。
<http://www.chil-chil.net/>
運営は2007年11月創設の株式会社サンディアス。
商業書籍のみならずあらゆるBL媒体のデータベース化を目指す。
レビュアー兼データ入力者は公募。

2008年4月【日時不詳】
文化系女子による情報発信プロジェクト“乙女ディア”発足。
<http://otomedia.jp/>
同月23日には後に霜月紫と改名する変態腐男子サイボーグ
・ YATCH も参加。
他にも腐男子を名乗るパーソナリティーが順次合流し、
ニコニコチャンネル「乙女ディア腐女子放送部」へと発展。
<http://ch.nicovideo.jp/ch801>

2008年5月2日
乙女用ポータルサイト“がる★ぱら”開設。
<http://www.garupara.jp/>

2008年7月1日
『BOY'S ピアス』2008年7月号【マガジン・マガジン刊】に
乙里玲太郎作「AYUMU～ホモビの国の王子様」掲載。
実在のゲイビデオ男優の在り様を漫画化したと言う触れ込み。

2008年7月30日
大阪府・堺市役所に以下タイトルの市民の声が寄せられる。
『BL 図書を購入した趣旨や目的、またこれまでに購入した冊数
及び購入費を教えてください』
http://www.city.sakai.lg.jp/city/info/_shimin/pastdata/5374.html
この投書がきっかけとなり 5500 冊余の BL 小説がリストアップされ、
同年8月以降11月まで未成年への貸出に相応しくないと
判断された上で一時的に閉架図書扱いとなる。
この動きはネットを中心としたマスコミ各社の話題となり年末まで報道は続いた。

2008年10月【日次不詳】
『JUNE』関連の発行元がマガジン・マガジンから新たに創業されたジュネットに移管された。
<http://company.june-net.com/>
<http://www.june-net.com/>

2008年11月8日
石田美紀・著『密やかな教育—くやおい・ボーイズラブ>前史—』（洛北出版）刊行。
<http://www.rakuhoku-pub.jp/book/27088.html>
ジェンダー論によらず史実確認を中心に JUNE 草創期を再構築し解説。

2008年12月1日
『サイゾー』12月号発行 サイゾー刊
2005年の記事に比較すると現場の証言の比重が大きくなった内容。120～129 ページ。
表紙の案内は『ボーイズラブの魅力とは？ 同性愛マンガにはまる男子急増のナゾ』。

[サイゾー発、日本全国「腐男子」育成計画！]
男同士の禁断のラブに萌える「腐男子」のヒミツ、教えます

2008年12月30日
同人誌『腐男子にきく。』（吉本たいまつ・編著）刊行。
学術的な面から腐男子の存在を考察した一冊。
翌2009年3月8日には諸事情により同書の改訂版が刊行される。
また続編『腐男子にきく。2』が2010年8月15日に刊行される。

2009年3月5日

女性週刊誌『女性セブン』【小学館】3月5日号中綴じに於いて
水城せとな作「キッキング・グーラミー」
（『窮鼠はチーズの夢を見る』[2009年5月8日初版 / 小学館]所収）を
教材とした「はじめてのBL～ボーイズラブ～」なる講座が掲載される。
別ページでは解説やブックガイドも掲載された。

2009年4月1日

ボーイズラブ専門書評サイト「ちるちる」が独自のBLアワード第1回を開催。
<http://www.chil-chil.net/viewer/rank2009/>
以降毎年一回、ユーザーおよび一般からのネット投票によって実施。
2013年実施 / 第4回 → <http://www.chil-chil.net/blAwardRank/y/2012/>

2009年4月4日

腐男子ポータルサイト“腐男子.net”、中国にて開設される。
<http://www.fudanshi.net/>

2009年11月1日

乙女のための図書館・cafe801（カフェハチマルイチ）、現在地にて開店する。
<http://cafe801.org/>
月に数日間、男子入店可能期間も設けられている。

2009年12月【詳細日次不詳】

米の専門出版社・YAOI PRESS が電子書籍専用小説サイト・Yaoi Prose の運用を開始する。
<http://www.yaoprose.com/>
並行して自社刊行作品の電子化を順次行う。

2010年2月

東京都議会に「東京都青少年の健全な育成に関する条例」一部改正案が提出され、
その内容がネットを中心として論議を呼んだ。所謂『非実在青少年』問題とも呼ばれるもの。
2013年現在もなお論の熾火は消えぬまま。

2010年4月25日

三和出版より『同人誌の森（紅組）』刊行される。
女性向け同人誌ガイドブック。
増加しつつあった同人誌通販ショップにも対応の内容。

2010年4月27日

特許庁に『男の娘』（おとこのこ）の商標登録が出願される。
出願番号：商願 2010-33669。
<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1007/30/news096.html>
申請者は株式会社未来少年。出版物への利用が目的との由。
最終的には受理されず。

2010年5月31日

日本初、と銘打ったボーイズラブバー「Miracle Jump」、
秋葉原にてオープン。在籍する男性店員は皆腐男子と言う触れ込み。
また二次元スタッフ（鳥丸：画）と言う存在も用いた接客展開を
執り行う。二次元スタッフも皆腐男子と言う設定。
公式サイト <http://www.miraclejump.com/>
公式ブログ <http://ameblo.jp/miraclejump801/>

2010年6月1日

特許庁に『男の娘☆』（おとこのこ）の商標登録が出願される。
出願番号：商願 2010-43337。
申請者は関連イベント「男の娘☆ Convention」の関係者であるとの事。
イベント限定利用に関する出願との事。
参考 <http://otokonoko.monolis.jp/otokonoko.php>
2011年9月9日に受理登録された。登録番号第 5437080 号。

2011年1月7日

（株）ピクト・プレス営業停止。自己破産へ。編集プロダクションを経て出版社へ。
二次創作アンソロジー及び個人選集で急成長するも…。
なお、刊行物等の残務処理の一部は同じくアンソロジー刊行事業で頭角を現した
CLAP が執行している。

2011 年 1 月

京都を拠点にするアートユニット・0000（オーフォー）が
Twitter 上の遣り取りから発展解釈された自分達の BL 的弄られを容認。
そこから彼等を BL 的に解釈した絵画展発足へと展開。

0000! OH, HOT! —0000 BL ANTHOLOGY—

<http://hidari-zingaro.jp/2011/01/0000-ohhot/>

1 月 13 日～1 月 18 日 於：東京中野・Hidari Zingaro

公認のナマモノ同人誌も制作され、期間中の 16 日には展示時間終了後に
BL 勉強会が設けられる。

<http://hidari-zingaro.jp/2011/01/0000-ohhotbl/>

ここから派生して現在も継続しているのが cafe801 を会場にして

不定期開催されている BL ビブリオバトルお茶会『BLT ～ BL teatime in Cafe801 ～』

<http://com.nicovideo.jp/community/co1269020>

BLT 成立までの経緯詳細についてはぶどうり・くすこによる記述を参照。

<http://xqosy.seesaa.net/article/322485977.html>

2011 年 6 月 3 日～10 月 2 日

明治大学・米沢嘉博記念図書館 1 階展示コーナーに於いて

「耽美の誕生～ボーイズラブ前史～」展が開催される。

関連資料の実物も公開された希少な展示会。

また往時の関係者も登壇したトークイベントも開催された。

6 月 26 日『永遠の 6 月（JUNE）』登壇者：柿沼英子・佐川俊彦

8 月 6 日『密やかな教育』登壇者：石田美紀

参照：

http://www.meiji.ac.jp/manga/yonezawa_lib/exh-tanbi.html

<http://www.douban.com/group/topic/22830085/>

http://d.hatena.ne.jp/yonezawa_lib/20110604

なお、往時刊行された雑誌『JUNE』の誌名は 6 月或いは作家のジャン・ジュネが
由来ではなく、当年表 1979 年の項目にある様に偶然が重なって生まれたもの。

トークイベントのタイトルは何かの洒落であろうか？

2011 年 6 月 12 日

札幌を拠点に活動する腐女子で構成される同人集団・ガール社刊行、
評論誌『girl!』創刊。

腐女子腐男子そして現場による活きた評論を目指し、2013年10月時点で
4 冊が刊行されている。

<http://girlsha.com/> <http://girlsha.com/girl/> <http://girlsha.com/girl3/>

<http://girlsha.com/girl4/>

2011 年 7 月 9 日

男子高+ボーイズラブをコンセプトとしたカフェバー “池袋男子 BL 学園” 開店。

<http://www.blcafe.jp/> <http://ameblo.jp/blcafe/>

http://twitter.com/BLcafe_ikemen <http://com.nicovideo.jp/community/co1666872>

紹介記事 → <http://news.toshimaku-town.com/2065/>

店員は皆腐男子との事。現在も営業継続中。

2011 年 8 月 21 日

ネットから発生した同人サークル・「アングラバンビ」によって

『普通の男子にBL書かせたアンソロジー』刊行される。

ツイッター上のネタの遣り取りから創作実験として生み出された一冊。

後に電子書籍化もされた。

<http://undergroundbanbi.web.fc2.com/>

<http://p.booklog.jp/book/35615>

2011 年 10 月 24 日

英語圏向けボーイズラブ特化電子書籍レーベル『SuBLime』発足。

<http://www.sublimemanga.com/>

2012 年 6 月以降、紙媒体も刊行開始した。

参照：<http://ebook.itmedia.co.jp/ebook/articles/1110/25/news075.html>

2011年11月3日

「からあげは総受け」を営業コンセプトに掲げたトッピングからあげ専門店・
“からあげボーイズラブ”が名古屋市内にて開店。

<http://chara-bl.com/>

http://twitter.com/Chara_BL

諸事情により一旦閉店しその後移転・営業再開。

<http://xaiosucbl.web.fc2.com/>

当初は際物視されるも、徐々に認知されている模様。

2011年11月25日

東京大学見聞伝ゼミナール有志主催による『BL Teatime in 駒場 2011』が
東京大学駒場祭の自主企画として駒場キャンパスにて開催。

<http://kenbunden.net/general/archives/2311>

これは同年6月25日を皮切りに開催された『BLT ~ BL teatime in Cafe801 ~』を
ヒントに講演会+パネルディスカッション形式で展開されたもの。

2012年2月

Twitter上で#BL短歌 タグによるBL短歌朗詠が創始され拡散し、
現在に至ると思われる。

参照：『BL短歌』 <http://togetter.com/li/253647>

それ以前にも個々による朗詠の試みはあったと思われるが、うねりと
言う形で感覚化共有化されたのは恐らく初めてであろうかと。

その感覚の共有の結実として同年11月18日、合同誌『共有結晶』が
創刊された。

2012年3月3日

秋月こお原作のBL小説【角川書店ルビー文庫・刊】・

『富士見二丁目交響楽団シリーズ 寒冷前線コンダクター』が

金田敬（かねだ さとし）監督の下実写映画化され劇場公開される。

<http://ameblo.jp/fujimi2partners/>

<http://fujimi-2.com/>

なお同作品は1997年6月にJUNE-VIDEOとしてマガジン・マガジンより

『寒冷前線 / 雨のち嵐』のタイトルでOVA化され世に出ている。

※参照 別冊 JUNE 7月号巻末広告【1997年7月1日発行、マガジン・マガジン刊】

2012年3月15日

女性専用と銘打ったゲーム特化（モバイル特化）SNS“BLobby”開設。

<http://blby.jp/>

2012年8月28日

リブレ出版より18禁オリジナルアンソロジー『PINK GOLD』刊行。

http://www.b-boy.jp/hotnews/pinkgold_top/

モザイク無。ISBNを付さず取次を通さない独自の流通方法を用いた。

同書は後に電子書籍としても流通。

2012年9月10日

リブレ出版より咎井淳（Jo Chen）参加のユニット・Guilt|Pleasureの著作

『IN THESE WORDS』刊行。

初版分が訳出BLでは恐らく初めて品不足による入手困難な状態に陥る。

ちなみにJo ChenはYAOI-CONに2003年以降ほぼ毎年ゲストとして招聘されている。

2012年10月【日次略】

2ちゃんねるを起点とした『黒子のバスケ』脅迫事件勃発。

【藤巻忠俊：作・集英社刊行週刊少年ジャンプ掲載・アニメ化もされた】

原作サイドとと並行して二次創作流通の場に対し圧力をかけると言うスタイルを

とっていた。

なお最初声明を発表した「喪服の死神」を名乗る者は当初年内に自死すると

宣言したが、2013年1月17日、起点となったスレッドに怪人801面相を名乗る

関係者と自称する人物がグリコ森永事件の実行犯・かい人21面相の文体を模した

書き込み（声明）をなし、喪服の死神の生存を告げるとともに同人誌関連への圧力停止・

原作サイドへの圧力の一時停止を一方向的に告げた。

ネットに始まりネットを経由しネットに終わった、と思われる事象の為

現存する情報の解釈も錯綜している模様。

実在した事例として記述しておく。

2012 年 11 月 6 日

株式会社パピレス運営の電子書籍投稿サイト「upppi (ウッピー)」、
upppi 小説投稿コンテスト第 2 弾に「upppi ボーイズラブ小説コンテスト」を開催。
http://upppi.com/ug/sc/page/bl_contest.html

賞金総額を 80.1 万円と設定し注視される。

2013 年 1 月 29 日まで作品を募集した結果、116 作品の応募があった。

http://upppi.com/ug/sc/page/bl_contest_result.html

大賞受賞作あり。

2012 年 12 月 7 日

腐女子 JP の新企画として WEB ラジオ・“ちゃんねる S” 発動。

http://www.fujyoshi.jp/main/channel_s

http://twitter.com/radio_channels

<http://ameblo.jp/radio-channels/>

腐女子・乙女向けを標榜しつつ健全な内容を目指す。

パーソナリティは鈴木智晴と椎名泉妃。

2013 年 10 月 18 日、第 22 回配信をもって終了。

2012 年 12 月 27 日

腐女子 JP の新企画として“腐女子 net.TV”【フジョネッティーヴィー】発動。

http://www.fujyoshi.jp/main/fujyonet_tv

後にニコニコチャンネル化する。

<http://ch.nicovideo.jp/fujyoshi.jp>

2012 年 12 月 28 日

『コミック JUNE』（ジュネット刊）、2013 年 2 月号にて休刊となる。

定期的に刊行される JUNE ブランド雑誌はこの時点で一切なくなった。

この時点で JUNE ブランドを継承しているのは不定期刊行ムック扱いの

『DVD JUNE』のみとなる。

2013 年 3 月 7 日

リブレ出版より『MAGAZINE BE×BOY』2013 年 4 月号が創刊 20 周年記念号として刊行。

<http://www.amazon.co.jp/dp/B00BGDNF8E/>

<http://www.b-boy.jp/hotnews/mbb20th/>

2013 年 3 月 14 日

秋葉原のボーイズラブバー「Miracle Jump」が

4 月 14 日に閉店する旨を公表。

詳細な理由は明かされていない。

公式サイト記述 <http://www.miraclejump.com/update.php?all>

公式ブログ記述 <http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11489919353.html>

ニュースブログ「アキバ日報」記事 <http://akibanippoh.lblog.jp/archives/1709582.html>

2013 年 4 月 1 日

ジュネット公式サイト、サイトデザイン更新を機に名称を『ジュネット』から

『ジュネット Web』に変更。URL はそのまま。

<http://www.june-net.com/>

2013 年 4 月 14 日

秋葉原のボーイズラブバー「Miracle Jump」が予告通り閉店。

公式ブログ記述 <http://ameblo.jp/miraclejump801/entry-11510924906.html>

2013 年 4 月 25 日

総て男性のみの執筆陣で構成された BL アンソロジー『男主 BL アンソロジー Galettes』が

電子書籍としてブックウォーカーの電子書店「BOOK ☆ WALKER」より配信開始される。

http://bookwalker.in/ex/sp/dansh_galettes/

執筆陣に BL 作品執筆実績は無い模様。

2013 年 4 月 25 日

腐女子のためと銘打たれたイラスト SNS ・「ripplex」開設される。

<http://ripplex.net/>

2013 年 5 月 1 日

4 月 25 日に開設された腐女子用イラスト SNS ・「ripplex」、
商標権の問題によりサイト名を「pictBLand」に変更する。
<http://pictbland.net/informations/detail/10>
<http://pictbland.net/>

2013 年 5 月 23 日

講談社刊行『週刊少年マガジン』連載「我妻さんは俺のヨメ」作中において
腐女子と自らを定義する主人公達と対立する女子グループの存在が描かれる。
【2013 年 6 月 5 日発売号 / 25 号～ 2013 年 6 月 19 日発売号 / 27 号】
その実態は歴史マニアな女子（歴女）と腐女子を混同した上、ネット上での
在り様の一部のみをクローズアップしたもの。

2013 年 5 月 30 日

米イベント・YAOI-CON、2013 年度の開催は一旦休止し、2014 年度より
再開すると発表。
http://www.bunkaextend.com/pick_090.html
<https://twitter.com/yaoicon/status/340208923606913025>

2013 年 6 月 8 日

と学会主催・日本トンデモ本大賞 2013 において
ポストメディア編集部：編『お城で BL』（一迅社）が第22回トンデモ本大賞に。
<http://www.ustream.tv/recorded/34005433#/recorded/34005433>
<http://www.ustream.tv/recorded/34005433#/recorded/34008641>
http://www.cyzo.com/2013/06/post_13611.html
http://www.cyzo.com/2013/06/post_13611_2.html

2013 年 7 月 5 日

2011 年に二度に渡り地上波 TV にてアニメ放映されていた
中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の
スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の
映画化が発表される。
<http://sekai-ichi.jp/>
2014 年全国ロードショーとの事。

2013 年 8 月 3 日

cyzo woman 掲載ネット記事
“BL短歌『共有結晶』インタビュー
Twitter 発「BL 短歌」、萌えを詠む腐女子が語る「ルールに縛られない関係性」の快感”
http://www.cyzowoman.com/2013/08/post_9336.html
BL 短歌の来歴、展望について。適度な距離感のある記事。

2013 年 9 月 26 日

株式会社パピレス運営の電子書籍投稿サイト「upppi（ウッピー）」開催
「upppi ボーイズラブ小説コンテスト」大賞受賞作、有償販売開始。
「その言葉を何度でも」 <http://www.papy.co.jp/act/books/1-234234/>

2013 年 9 月 26 日

歌人・榊野浩一が Twitter 上でふと思いついて BL 短歌連作を始め、
NAVER まとめにて公表する。
<http://matome.naver.jp/odai/2138026155965285601>
この一連の連作は榊野の認識では Twitter で先行拡散していた #BL短歌 タグに
よる作品群とは別個の存在であったとの事。

2013 年 9 月 29 日

東池袋のコミックカフェ・cafe801【カフェハチマルイチ】を会場に
『やおいこん #01』が開催される。
<http://gender-sf.org/yaoicon/yaoicon01.html>
主催団体も明言しているが米国の『YAOI-CON』とは別組織。関連も無い。
これは 1992 年 8 月開催の日本 SF 大会【大会毎愛称：HAMACON】の自主企画・
『やおいパネルディスカッション』の現在までの流れの上にあるもの。
記録：http://homepage3.nifty.com/Noah/yaoi_pd.htm
【ミリオン出版『DEEP』創刊号（1993 年 9 月）にも掲載有】
『やおいパネルディスカッション』は 1992 年以後、SF 大会の自主企画として
毎回開催されていた。『やおいこん #01』はそれが独立企画化されたもの。

2013 年 9 月 30 日

中村春菊・作『世界一初恋』【角川書店刊】の
スピンアウト小説『世界一初恋～横澤隆史の場合～』【藤崎都・著】の
映画版公式サイトが公開される。
<http://sekai-ichi-movie.jp/>

2013 年 10 月 15 日

『黒子のバスケ』関連脅迫事件に新展開。

<http://www.itmedia.co.jp/news/articles/1310/16/news038.html>

<http://www.asahi.com/national/update/1015/TKY201310150285.html>

報道の限りでは、関係者とみられる怪人801面相を名乗る人物が事前にネット上で
声明文を残さずにグリコ森永事件を模した犯行に及んだ、とみられる。

○●○

BLlogia 準備室 <http://bllogia.wordpress.com/>

及び

作成者自サイト <http://xqo.ooh.jp/cc/by-sa/index.shtml>

より無償提供。